５－２－２　短期大学教育改革 ICT 戦略会議

＜事業計画＞

短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、複数の短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動のコンソーシアムをネット上に形成し、教育による「高齢者との交流促進・課題解決策の支援事業」、「地域価値発見の支援事業」のモデルを探求するため、コンソーシアムによる試行事業の経験を積み重ね、事例の拡大を図る。そのために「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」は休止する。

＜事業の実施状況＞

「短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会」に加えて、地域貢献支援活動のコンソーシアム校の協力を得て教育による地域貢献活動を試行した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会

令和 4 年 5 月 20 日、8 月 9 日、9 月 15 日、11 月 4 日、令和 5 年 3 月 18 日に運営委員及び短期大学地域貢献支援活動コンソーシアム参加教員の平均 10 名が出席して 5 回開催し、短期大学コンソーシアムによる試行事業の実施とコンソーシアムサイトの整備、次年度への対応を検討した。

（1）短期大学コンソーシアムによる試行事業の実施

コンソーシアム活動を複数の短期大学間で協力して行う「学びの協同化」を中心に進めることになり、以下の通り「高齢者支援事業」、「地域価値支援事業」の試行授業を実施した。

【高齢者支援事業】

経緯　学生が主体となって進める社会実践の訓練として、課外授業として「高齢者支援事業」の試行を目指すことになったが、学生側に高齢者との対話経験がないことから、対話の仕方などを学ぶために、短期大学の学生、社会人及び高齢者グループの方々などと、ネット上で交流の経験を積み重ねることになり、2 年前から実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学で「異世代交流支援事業」をはじめた。

概要　前期に動画編集方法を 5 回にわたって専門家から学び、そこで習得した技能を生かして、後期に高齢者をキャンパスに招いて対面で交流し、あらかじめ学生が考えた内容でインタビューを行い、それを録画・編集し、作品を制作した。動画作品は YouTube に公開した後、再び高齢者と Zoom で交流する機会を設け、高齢者から動画についての感想を受けた。

ノウハウ　前期に動画編集方法を実践女子大学短期大学部の学生が対面で受けた講座の様子を撮影・編集して YouTube に限定公開し、山野美容芸術短期大学の学生がオンデマンドで動画編集の方法を学んだ。両校の学生は各自が制作した友人紹介の動画をクラウド上に保存して、プロの専門家からコメントを受ける機会を設けた。

後期 10 月のインタビューの動画制作は、前期に動画作りの基礎を受けていない学生数名の補習を行い、両校全員基礎知識を共有した上で、専門家よりインタビュー動画の説明を受けた。その上でインタビューの内容をグループで考え、高齢者へのインタビューを 6 グループに別れ(高齢者 1 名ずつ参加)で撮影した。なお、11 月の高齢者との交流までの間 Zoom で専門家のアドバイスを受けた。こうに対面の他にオンデマンド、オンライン、クラウドを組み合わせることで活動を実施することができた。

成果　参加学生は、動画制作をプロから学ぶ機会を通して、高齢者との交流だけではなく、動画制作の技術、インタビューのコツなども習得でき、企画力・協調性・時間管理能力・発信力・IT スキル・コミュニケーション力などの社会人基礎力の向上につながった。ICT に長け、活発な活動を行っている高齢者の 2 団体(「baba lab」、「地域デビュー楽しみ隊」)とのつながりを強めることができ、学生・高齢者双方が刺激し合う様子がみられた。

展望 学生がそれぞれの専門分野を生かして高齢者と対話しながらニーズ調査を行い、課題解決のサポートができるよう、これまでの活動をさらに進化させていく予定にしている。

活動の詳細

① 参加人数と活動状況

前期：実践短期大学の学生 6名（教室で対面講座参加）
山野短期大学の学生 15名(自宅でオンデマンド受講、実践の講座録画を使用)

プロに学ぶインタビュー動画作りの講座(各回授業後の 15：00 から 16：00 に実施)
＊第 1 回(5 月 23 日)：ペアになって相手の自己 PR 映像(3 分程度)を撮影・編集
＊第 2 回(5 月 30 日)：インタビュー映像「あなたにとってのコロナ禍」(3 分)を作る。3 人グループで質問内容を検討する。
＊第 3 回(6 月 6 日)：撮影素材の文字起こし、使用部分の検討・構成を修正する。
＊第 4 回(6 月 13 日)：編集を行い Zoom で個別に講師のプレビューを受ける。テロップや BGM をつけて完成する。
＊第 5 回(6 月 20 日)：発表、振り返りを行う。
＊山野学生向け動画づくり講座(7 月 9 日)：山野の学生 21 名

後期：実践短期大学の学生 6名
山野短期大学の学生 15名
高齢者 6名

対面で高齢者インタビュー、インタビュー動画を YouTube 公開、Zoom ミーティング
＊第 1 回(10 月 1 日)土曜日
10:00-13:00(3 時間)：前期に動画作りの基礎を受けていない学生数名の補習
14:00-14:30(1 時間半)：インタビュー動画について専門家より説明を受ける。
14:30-15:00(30 分)：インタビューの内容をグループで考える。
15:00-16:00(1 時間)：高齢者へのインタビューを 6 グループ(高齢者 1 名ずつ参加)で撮影し、交流する。
＊第 2 回(11 月 21 日)：インタビュー映像(3 分)について高齢者との意見交換と交流を行う。

② 参加学生から寄せられた特徴的な感想(抜粋)

＜活動に参加してよかった点・活動を通して学んだこと＞
＊ インタビューという貴重な経験をさせていただいたこと、異世代の方とコミュニケーションをとれたことです。本当に楽しかったです。
＊ 普段あまり関わらない高齢者の方々と交流できて色々な考え方に触れらことができて自分の学びになりました。
＊ 話したことがなかった学生とグループが一緒になって話す機会も増えたし、異世代の方と交流することで、世代間での考え方の違いについて理解することができ、コミュニティを広げるきっかけにもなったので良かったです。
＊ インタビューをする際に若者言葉のようなものを使いそうになってしまったので、世代の違う方と話す時は分かる言葉を意識して使うことが大切だと思いました。また、コミュニケーションの楽しさを改めて学びました。
＊ この活動に参加していなければ学ぶことが出来なかった、マイクの付け方やカメラの置く位置、編集の仕方などを学ぶことが出来たのが良かったです。
＊ 動画にしたときに気にならないマイクの付け方やインタビューのカメラの配置などを新しく学ぶことが出来ました。一つの音源しか使ってはいけないと思っていたけれど、質問や雰囲気によって音源を変えるとより良くなるという事や、文字を出すタイミングについてアドバイスいただけたりして、学べることが沢山ありました。

＜活動を通して成長できたこと＞
＊ 活動を通して、積極的に自分の役割を果たすことができるようになってきたと思います。これを今するべきかもしれないと考え、自分の役割を果たしました。
＊ 異世代の方との交流を経て、世代が違っても自分はこんなにもコミュニケーションをとることが出来るのだなということを知るきっかけにもなって、もっともっとコミュニティを広げていきたいなと感じました。

③ 参加高齢者から寄せられた特徴的な感想(抜粋)

＜学生の動画を見た感想＞
＊ どの動画もよくまとまっており、音楽の使い方も絶妙で、編集レベルが高いと思いました。さすがデジタルネイティブ世代は違うなと感心致しました。もちろん指導された講師の

方のレベルが高かったからこそと思います。

＜今回の活動に参加しての感想＞

＊ 今回若い学生さんと話す機会に恵まれとても新鮮でしたし、楽しかったです。3人の学生さんと話しましたが、お互いにお年寄りは、若者は・・・という先入観があったかもしれませんね。多様性が声高に言われる昨今、外国人だけでなく、同じ日本人でも異世代交流・異世代相互理解は必要だと思います。是非、このような機会をもっともっと作って欲しいと思います。また、何かありましたらいつでもお手伝いいたします。

＊ インタビューでは最初に渋谷でのエピソードから始まり、いろいろと活動している現在の生活の過ごし方になりました。お話ししている内に、今の自分は学生時代の再現ではないかと思いました。暗い高校時代から大学入って弾けました。クラス、ゼミ、サークル、海外一人旅から多くの人との出会いがあり、人を介していろいろと活動の幅が広がりました。光り輝いていた当時を思い出し、今の自分は、学生時代が原点だったこと思い出すキッカケとなりました。自分の人生の振り返りの時間をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。年末には自宅で学生さんの作成してくれたYouTube動画を鑑賞し、これまでの人生の振り返りをすることができました。また、今後企画がありましたら、参加したいと思います。

④ まとめ

＊ 短期大学生の課外活動時間の確保が難しい中、両校の学生、高齢者という3者をつなぎ、動画制作の専門家との調整も必要となるため、スケジューリングは困難を極めた。

＊ こうした困難を克服するため、対面の他にオンデマンド、オンライン、クラウドに画保存といった方法を組み合わせ、また動画をYouTube公開してあらかじめ視聴するなどの工夫を行った。

＊ 地域社会への貢献活動を継続していくには、一つの短期大学で完結するのではなく、複数の教育機関と異世代組織、自治体が連携することで、可能性がより一層広がっていくことを感じた。今後も大学間・異世代者間・自治体や民間団体の連携を強化し、SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指すことにしている。

【地域価値発見支援事業】

経緯 2019年度より大阪夕陽丘学園短期大学として三重県志摩市に対して、地域価値発見支援事業を目指した取り組みとして、真珠に注目した「パールズコレクション」の支援を行ってきたが、真珠の需要は年々低下してきており、早急に新たな真珠の価値を見出す必要性が高まっていることに鑑み、2022年度に志學館大学（鹿児島県）、別府大学短期大学部（大分県）、大阪夕陽丘学園短期大学（大阪府）、和泉短期大学（神奈川県）からなるコンソーシアムを構成し、学びの協同化を通じて従来の流通に乗らない真珠や貝殻の新しい価値の発見に取り組むことで、地域価値の創生に繋げることを目指して、「真珠価値探求プロジェクト」を立ち上げた。

概要 本プロジェクトを通して地域コミュニティの基盤となる人材養成として、地域社会とどのようにかかわっていくべきかを短期大学生に体験させることで、「市民としての自分らしさ」を気づかせることにより、コミュニケーション力や社会人基礎力などの向上を期待した。3校による分野横断的な学びを通じて、学修成果を社会実装につなげる貴重な機会の提供と、社会の役に立ちたいという高い精神性・自由で豊かな感性・情報発信力などの学生力と教員の研究力、職員のマネジメント力を一体化することで、新たな「短期大学力」としての存在感を社会に強くアピールすることを目指した。

ノウハウ 活動は、3校の短期大学と1大学の支援でZoomにより2022年11月から2023年3月上旬にかけて6回に亘り、課外授業として実施した。初めての学生がネット上で交流できるよう1回目は「Zoomで繋がろう」からスタートした。2回目は「お互いを知ろう」、3回目は「アコヤ真珠および貝殻を調べてみよう」、4回目は「テーマを決めよう」というスケジュールで、各回午後6時から30分間とした。5回目の発表会は午後1時からの1時間、6回目の総括と「次年度に繋げよう」は1時からの45分間という短い時間の中で教員・学生による司会、6名の教員全員によるファシリテータの支援のもとで実施した。

活動方法は、各校とも毎回実施日の3日前までに説明スライドあるいは説明動画（10分以内）をGoogle Classroomに提出し、事前に各自で視聴しておき、Zoomでの意見交流に臨んだ。また、各回の後10日以内にGoogleフォームのアンケートに回答することで振り返りができるようにした。当日不参加者へのオンデマンド配信の提供もClassroomを利用した。

成果　4回のオンライン交流では、回を追うごとに各校とも他校のプレゼンテーションに刺激され、地域性や学科特性がブラシュアップされた。その結果、大阪夕陽丘学園短期大学では他学科である製菓クリエイトコースの先生と共同したフランス菓子の制作、和泉短期大学では幼児保育目線でのマラカスや貝殻のペン立て制作から、真珠に親しむためのストラテジーの提示、別府大学短期大学部では地域特性を生かしたプレゼンテーションから温泉の素やチキン南蛮など地域に根差した作品の制作が行われた。

総括では、事前アンケートを基に各校が他校をリスペクトした意見が出され、分野横断的コミュニケーションを通じて、「学びの連鎖」や「学びの化学反応」などを示すことができた。

展望　今回のパイロット試行のノウハウを基盤として、全国の地域価値の創生に繋げることを目的としたい。また、各校の問題に対して問題解決型コンソーシアムを行うことや、物質を対象とした事案のみならず、少子化問題等の非物質に対しても取り組むことへと繋げることが期待できる。

活動の詳細

① 参加人数と活動状況

参加学生(全体 19 名)：大阪夕陽丘学園短期大学（7 名）
和泉短期大学（5 名）
別府大学短期大学部（7 名）

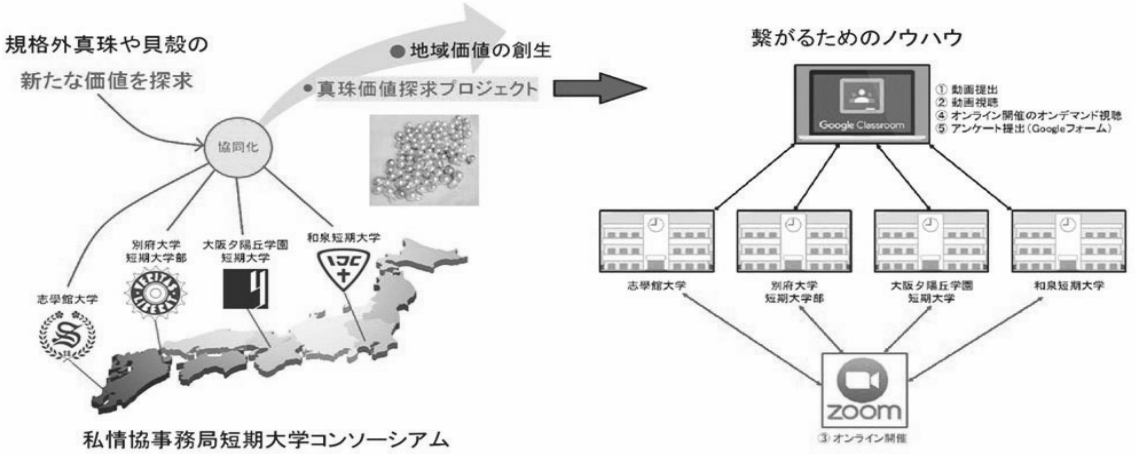
参加教員(6 名)　：ファシリテータ又は司会
大重康雄（志學館大学）、治京玉記（大阪夕陽丘学園短期大学）後藤善友・衛藤大青（別府大学短期大学部）
深町和哉・八代陽子（和泉短期大学）

1 回目の学生参加　:13 名（内、オンデマンド参加 2 名）
2 回目の学生参加　:10 名
3 回目の学生参加　:12 名
4 回目の学生参加　:10 名
5 回目の学生参加　:12 名（内、オンデマンド参加 1 名）
6 回目の学生参加　: 6 名（内、オンデマンド参加 1 名）

2022 年 11 月 10 日～2023 年 3 月 9 日（全 6 回）

回数	開催日	テーマ	司会進行	ファシリテーター
1回目	11月10日＊	オンライン（Zoom）で繋がろう！	大阪夕陽丘学園短期大学　治京	教員全員
2回目	12月15日＊	お互いを知ろう！	大阪夕陽丘学園短期大学　学生さん	治京
3回目	1月12日＊	アコヤ真珠および貝殻を調べてみよう！	和泉短期大学　学生さん	深町・八代先生
4回目	1月26日＊	テーマを決めよう！	別府大学短期大学部　学生さん	衛藤・後藤先生
5回目	3月2日＊＊	発表会	志學館大学　大重先生	教員全員
6回目	3月9日＊＊＊	次年度に繋げよう！	志學館大学　大重先生	教員全員

＊18時～18時30分、＊＊13時～14時、＊＊＊13時～13時45分



② 参加学生から寄せられた特徴的な感想(抜粋)

＜学びの協同化について＞

＊ 他の学校・学生と繋がることのできる機会はなかなかないと思います。そういう中で、全国各地にいる学生とひとつのプロジェクトに取り組むということはとても面白いことだと思いました。

＊ 他の大学の人と交流がもてて、その地域のことを色々と知れるから。

＜真珠価値探求プロジェクトへの期待について＞

＊ 自分が今まで一度も考えたことがない新しいことに、とてもワクワクしました。
＊ 本来廃棄されるはずだったもので何かを開発するのが楽しそうだから。
＊ 今まで真珠はアクセサリーなどに使われるものだと思っていたけれど、それをどんな風に使えばよいか、みんなで考えていくことが出来るのは楽しそうだし良い事だと思うから。

＜規格外真珠について＞
＊ 素人が見ると規格外真珠もとても綺麗で、価値は充分に感じることができました。販売できない野菜や果物も中身の価値は変わらないのと同じ感覚なのかなと思います。例では、パールポークによる身体への影響などに、とても興味をもちました。
＊ 宝飾品で使われる規格には当てはまらないのかもしれませんが、成分は変わらないし、いびつな形もこの世に一つしかないという意味で価値のあるものだと思います。このプロジェクトで出すものはまだ決まっていませんが、出されるものに「規格外」という言い方はあまり使いたくないなと思いました。規格外なだけであって、利用方法は色々あるははずではないかと思う。

＜真珠価値探求プロジェクトに参加して＞
＊ 一つの題材に対して、普段学校で学ぶことができないようなものを調べたり、発表する機会ができたこと。他大学との交流ができたこと。
＊ 真珠をどうやって広めていけばいいのかを、他大学の方とそれぞれの特徴を活かしながら考えられたことがよかった。

＜真珠価値探求プロジェクトの改善点について＞
＊ プロジェクトゴールを明確にしてほしいです。目的は志摩市の価値創造ということでしたが、具体的なゴール（ステークホルダーが誰なのか、どんな成果物を期待しているのか）がないままスタートしたので、どこに向かえばいいのかがぼんやりしてしまいました。
＊ 議事録を残したらよいのではと思いました。次の回以降の資料作成やミーティング時の振返りに参考になると思います。議事録作成者は各回大学で持ち回ればよいと思います。
＊ もう少し長い期間を設けて入念に調べる時間や、他大学とのディスカッションがあればよかったかなと思った。

＜各短期大学の発表について＞
大阪夕陽丘学園短期大学
＊ 理系的な考え方が自分たちとは全く違いとても面白かった。今後、販売を考えて真珠プロジェクトを続ける場合は成分などに表示して考えることも必要だと大阪夕陽丘学園短期大学さんの発表をきいて考えることができた。
＊ 私たちが挙げた案に関して成分を調べてくれたり、方向性の後押しをしてくれたなと感じています。また、今回大阪夕陽が作ったお菓子、見た目もきれいで本格的だなと思いました。

和泉短期大学
＊ マラカスやペン立てづくりと、劇や紙芝居を活用した真珠の歴史などを組み合わせた教育というアイデアはとても良いなと思いました。「教育には啓蒙と実践の面からアプローチすることが大切」というようなことが印象でした。
＊ 保育に携わられてるとのことで、全く別の観点から真珠の価値を調べられてて、発想や提案など面白かったです。おもちゃなどにして真珠を幼少期から身近に触れていくことで、いい意味で価値も下がり、真珠がもっと近い存在になっていくのではないかと思いました。

別府大学短期大学部
＊ 入浴剤の検証は「やってみた」だけでなく、対照実験や検証項目の設定などをされていて、効果検証の振返りと課題出しをされていたので、次の検証が具体的にイメージできていいなと思いました。
＊ 私自身も温泉が大好きで、この春にも別府温泉に旅行に行きます。湯の華と真珠パウダーを混ぜて美容効果を検証するというのはとても興味深く見させていただきました。まさかそんな短期間で効果があるのかな？とワクワクしましたが、そんな甘いものでもないんですね。。。（笑）でも継続すると効果を期待できるようで、新たな可能性としてすごく面白い発想だと思いました。

＜次に繋ぐための学生からの意見・感想＞
＊ 他大学が発表時以外でどのように取り組んでいたか、うまくいったこと or いかなかったことを知りたいです。当校は毎回参加メンバーが少なく、ほとんど一人か二人で、喧々諤々と議論が起こることもありませんでした。リーダーやファシリテータもなく、集まりもなくプロジェクトというかたちになっていなかったです。他大学でどのようにされていたのかを知ることで、次回以降の参考にできると思いました。
＊ 今回の真珠プロジェクトでたくさんの意見が出て、本当にワークショップのようなものをしたいという思いになった。例えば、3 大学にそれぞれの大学の考えたものを並べてみて、ほかの学生に見せるだけでも真珠の存在や価値を伝えることができると思うので、「真珠を布教するために」ということを目標として考えて行けたらいいなと思った。
＊ 次の課題は、「コミュニケーションを取る」ということかなと思います。今回は、各校それぞれが案を出して実行するという形でしたが、次の時は各校が案を出しそれぞれが1つのことを完成させるといのもいいかなと思いました。

③ まとめ

真珠価値探求プロジェクトを実施して、真珠に関する知識の少ない学生が、プロジェクトを通じて独自の作品を考え、成長を実感した。また、異なる分野や他大学の学生との交流から刺激を受け、コロナ禍でのサークル活動がない中でも仲間と集まること自体を楽しんでいた。さらに、学生達が新たな価値を見出すために意見や資料を交換しながら、異なるバック

グラウンドを持つ学生同士が話し合い、提案を考え出した本プロジェクトは貴重な経験であった。

（２）コンソーシアムサイトの整備

2021 年に開催の短期大学教育改革 ICT 戦略会議に参加した、8 短期大学 40 名の教員の方々に、2022 年 6 月下旬から 8 月上旬に Google Classroom に掲載の「短期大学コンソーシアムサイト」の活動内容を更新し、コンソーシアムサイトの閲覧案内を行ったところ、3 短期大学で閲覧が行われたが積極的に情報収集したようには見られなかった。

参加校の閲覧が進まない原因として地域貢献支援事業のコンソーシアムサイトの作り方を見直す必要があると判断し、本協会が支援事業を短期大学教育の中で進めようとしているのか、各短期大学が興味・関心をそそるようなストーリー的な説明を分かりやすく作り、誘導する仕掛けを以下のように見直すことにした。

① 学会のサイトはクリックしたらすぐに詳細が見られるが、Google Classroom のサイトはセキュリティ面からの制約で使用できない。最初の入り口として私情協のホームページの一部に、コンソーシアムの活動を紹介する簡単なページを設け、活動全体をコンパクトに把握できるよう表示した。なお、コンソーシアム活動の詳細を閲覧する場合には、情報共有の参加申し込みが必要であり、その上で Google Classroom サイトの閲覧方法などの案内を行うことにしている。詳細は、巻末の 2022 年度事業報告書の附属明細書【2－10】を参照されたい。

② 支援事業の内容と報告は、Google Classroom を活用してコンソーシアム活動のプラットフォームの枠組みを掲載することにした。その上で 2021 年度の活動報告からプラットフォームのサイトに接続し、支援事業の「経緯」、「概要」、「成果」、「ノウハウ」、「展望」を簡潔に紹介することにした。また、具体的な支援事業の取組み状況、参加学生からの声、自治体等の感想などを掲載することにした。

③ 「私の授業」とか「生徒」という表現は、Google Classroom 使うには枠組みに慣れないといけないので、画面表示の名称及びストリームの構成変更の可能性について、担当者に打診したところ、仕様変更できないことが判明した。

④ プラットフォームの環境と運営は、支援事業の活動情報を短期大学が共有・活用できるようにするため、Google Classroom を活用しており、短期大学に費用負担は発生生しない。クラウド型グループウェアの管理運営は、短期大学間で役割分担する必要があるが、当面本協会の運営委員会で対応することにした。

（３）来年度への対応

高齢者支援事業は、これまで短期大学の課外活動として 2 校で継続してきたが、来年度以降費用面などの負担を伴うことから継続していくことが困難な状況にあるので、コンソーシアム活動を休止することを考えている。

地域価値発見支援事業は、「真珠探求プロジェクト」のコンソーシアム活動を中心的に進めてきた短期大学の参加が困難になったことと、高齢者支援事業に参加の短期大学が新たな観点で地域価値発見支援事業を実施している点も踏まえて、改めてコンソーシアム活動の在り方を来年度に再構築する予定にしている。

なお、社会問題の課題解決を通して、「市民としての自分らしさ」に気づかせる本協会の事業は学生から高い評価を得ていることに鑑み、コンソーシアム活動に多くの短期大学が今後も参加できるよう、来年度の「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」で仔細を報告し、地域貢献支援活動を普及・推進していくための条件や課題、課外授業のノウハウ、学修成果などについて意見交流することになった。